

ミステリ読書案内

2023. 9. 29 発行元

第517号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

ヴァン・ダイン「ベスト表」(再掲)

ヴァン・ダインの『ベスト表』を再度取り上げてみよう。何しろ作品数が12しかないのだから、あまり悩むことはない。『僧正殺人事件』はいろいろな意味でこの後のミステリ界に大きな影響を与えたと言える。

『僧正殺人事件』がNo1

振り返ってみると、私のこの『ミステリ読書案内』では「ヴァン・ダインの代表作」というテーマを書いていなかったのだ。今号がそれにあたると思ってもらえば良い。「どの順番で読むか」の号に書いたとおり、ヴァン・ダインの作品は発表順に『ベンスン殺人事件』から読んでいくのが一番正しい。

『ベスト表』を作ればNo1は『僧正殺人事件』。マザーグースのモチーフを使用したことが、これ以降の世界のミステリに大きな影響を与

えた。クリスティの『そして誰もいなくなった』は1939年。日本のミステリでも『僧正』に言及している作品はたくさんある。

EQ作品のような「読者への挑戦」はないものの、「本格ミステリ黄金期」の代表的な作品。今の若い人たちが読めば、少し古々しく感じる部分も多いだろうが、謎そのものや、雰囲気、捜査を進めていく緊迫感などは十分に伝わるのではないだろうか。

名探偵のファイロ・ヴァンスや地方検事のジョン・F・X・マーカム、そしてアーネスト・ヒース部長刑事

《ヴァン・ダインのベスト表》

1. 僧正殺人事件 ④
2. グリーン家殺人事件 ③
3. ベンスン殺人事件 ①
4. カナリア殺人事件 ②
5. カブト虫殺人事件 ⑦
6. ケネル殺人事件 ⑥
7. ガーデン殺人事件 ⑤
8. ドラゴン殺人事件 ⑧
9. カシノ殺人事件 ⑨
10. 誘拐殺人事件 ⑩
11. グレイシー・アレン殺人事件⑪
12. ウィンター殺人事件 ⑫

私が持っているのは、全部創元推理文庫版。丸数字は発行順。初期の4作のレベルが高い。9番以降は……。

など常連のメンバーの活躍なども楽しんでもらえればよい。ヴァン・ダインの独特な学術的会話(ペダントリー)もそれなりに楽しんでいる読者は多いようだ。

『グリーン家殺人事件』

1928年の作。長編第三作に当たる。私の手元にあるのは1973年の創元推理文庫第36版。220円だ。内表紙の裏にバルコム画による「殺人事件当時のグリーン屋敷」という版画風の挿絵が入っていて、尖塔のついた十六世紀のゴシック様式に近い館の様子が示されている。建物そのものに仕掛けがあるわけではないが、雰囲気づくりには大いに役立っている。

物語の立ち上がりは比較的のんびりしたもの。検事マーカムのもとを訪れていたファイロ・ヴァンスの会話がスタート。昨日グリーン家で起きた銃撃事件が話題となり、やがてグリーン家の長男・チェスター・グリーンが相談にやってくる。夜中に押し入り強盗が入ってきて、長女のジュリアを撃ち殺し、末妹のアダに大怪我を負わせた件について、警察は頼りにならないから、検事に早めに手を打ってほしいと要望を出す。チェスターが帰った後、部長刑事のヒースが顔を出し、ようやく事件の中身が少しずつ明らかになっていく。賊は表玄関から出入りした。雪の上に足跡がある。ジュリアは前から撃たれていて、アダは背中側から撃たれた模様。…。でも、泥棒かもしれないというのは最初の話だけで、調べていくとこのグリーン家の内情が見えてくる。異様な遺言状の話…。そして殺人は更に続いていく。生き残っていくのは……。

『僧正殺人事件』

1929年の作。長編第四作に当たる。私の手元にあるのは1972年の創元推理文庫第25版。この作品を一番印象付けているのはマザーグースの童謡。「コックロビンを殺したのはたあれ…」で始まる歌詞が土台となって物語が展開していくところか最大の読みどころ。

ヴァンスのところにマーカムから電話がかかって来る。リヴィーサイド・ドライブのディラード教授宅の庭で弓術選手のJ・C・ロビンが矢で殺されたという。著名なディラード教授の姪・ベルを巡って恋敵のようになっていたロビンとレイモンド・スパーリングと一緒に弓の練習をしていたらしいが…。マザーグースでいうと、ロビン(駒鳥)を殺したのは雀。雀はドイツ語の綴りで言うとスパーリングというらしい。「『わたしたち』って雀がいった」。犯人はスパーリングか？それではあまりに単純だ。郵便受けにタイプライターで打ち込まれた手紙が挿んであった。「ロビンが死んだ。誰がコック・ロビンを殺したか。スパーリングは雀の意味だ。」と。そして署名が大文字で「僧正」。ディラード邸のとなりにはドラッカー家が住んでおり、更に連続殺人に発展していく。名探偵ファイロ・ヴァンスはこの謎を解き、犯人を指摘することができるのか？